母親の教育意識と社会関係資本（2）

――社会関係資本の特徴づけと母親の就業をめぐって――

○福岡教育大学　喜多加実代
活水女子大学　石川由香里
新潟大学　杉原名穂子
武蔵大学　中西祐子

1　目的

この報告の目的は、子どもの教育に対して、母親の社会関係資本や、社会関係資本と関わる活動がどのように影響するかを調査から検討することである。(1)社会関係資本については、①経済資本・文化資本と同様、社会階層によって偏りがあり、その格差を再生産するというブルデュー的な把握と、②社会階層や経済力と独立に機能し、教育における階層上の不利を是正する役割をもつというコールマンから影響を受けた捉え方がある。子どもの教育達成について、このどちらがより妥当するかが検討における１つの目的である。（調査の性格上、個人や家族の社会関係に焦点を当てているため十全な検討にはならないことは断っておく。）(2)コールマンの指摘では、女性の就業が社会関係資本を低下させるとされているが、その後の実証研究ではそれに懐疑的な結論が出ている。しかし、小中受験率や通塾時間などにおいて、専業主婦家庭が優位になるという近年の日本の研究もある。母親の就業が社会関係資本や子どもの教育達成にどう影響するのかを検討することが、もう１つの目的である。

2　方法

データとしては、「母親の教育意識と社会関係資本（1）」と同じ調査を用い、 (1)子どもが四年制大学に進学した場合と、進学しなかった場合とを教育達成の指標とし、この 2 変数間で、子どもの教育に関する情報収集対象先、子育て上の悩み相談先、母親本人の悩み相談先、社会活動の量に差があるかを見た。また、こうした情報収集先、悩み相談先、社会活動の量と母親自身の学歴との関係も併せて分析した。(2)については、母親の就業形態によって、子どもの四年制大学進学割合が異なるか、また情報収集先、悩み相談先、社会活動の量が異なるかを検討した。情報収集先等の量については、小中学生をもつ母親についても検討対象とした。

3　結果

(1)分析の結果、子どもが四年制大学に進学したかどうかで、子どもの教育情報収集先、子育て悩み相談先、本人の悩み相談先の量の平均に有意な差が見られた。しかし、これら平均の差としては母親（本人）の学歴別で検証した差の方が大きく、母親（本人）の学歴別でみると、社会活動量にも有意な差が見られた。この点では社会関係資本の①の特性が示唆される。だが一方、更に母親学歴と子どもの進学を併せて比較すると、母親が短大・大卒の場合は子どもが四年制大学に進学するかどうかで情報収集先、相談先量の平均には差がないのに対し、母親が高校・専門学校卒の場合、子どもが四年制大学に進学したかどうかで差が見られる。更に高校・専門学校卒母親について子どもの性別別に見ると、子どもが女子の場合に差が見られる。この点では社会関係が不利を是正するという②の特性が示唆される。(2)母親の就業別では、進学割合、情報収集先、相談先等の量についての差は見られなかった。

4　結論

本調査からは、(1)社会関係資本については、①、②の両義的性格を拭えないものとして特徴づけられる。(2)また、母親の就業による社会関係資本の量や、社会関係資本を通じた子どもの教育達成（四年制大学への進学）への影響は見られないことが想定される。

（※本研究は科研費（24530688）の助成を受けたものである。）